

## コラム① なぜ、トンボとよぶの？

なぜ、トンボと呼ばれるのでしょうか？  
いろいろと説がありますが、棒が飛んでいるように見えることから、「飛ぶ棒」からトンボになった説や、トンボが沼や湿地でくらすことから、沼や湿地を意味する「ダンブリ」「ドンブ」「タンブ」から転じて、トンボという呼び名がついた説などがあります。



トンボは体が細長いので、棒が飛んでいるように見えます。  
写真：カトリヤンマのオス



トンボは沼や湿地など、浅い水辺でくらす種が多くいます。  
写真：シオカラトンボのオス

## コラム② コウノトリのくらしを支えるトンボ

コウノトリは肉食性で、水辺にいるさまざまな生き物を食べますが、昆虫では、水辺でくらすトンボ（成虫と幼虫（ヤゴ）のいずれも）を、エサとして食べることが観察されています。

トンボは、成虫の時は、はねが生えていて、空を飛び回っているのですが、コウノトリもなかなか捕まえることはできないかもしれませんが、ヤゴであれば、はねがなく、水中にいるので、コウノトリからするとヤゴのほうが捕まえやすいかもしれません。

また、トンボはコウノトリのエサとなる、ほかの生き物のエサにもなります。例えば、トンボの幼虫（ヤゴ）は、コイやフナなどの大きな魚のエサになりますし、成虫はカエルなどのエサになります。

トンボはコウノトリのくらしを支えています。



トンボはコウノトリのくらしを支えています。  
写真：ギンヤンマのヤゴ